

# 抜き打ち調査実施報告書

法人名	社会福祉法人「生活クラブ」
施設名	生活クラブ風の村 特養ホーム 八街
実施日 年 月 日 時 間	開始 2015年 11月 26日 (木) 0時 40分 終了 2015年 11月 26日 (木) 9時 40分
評価者名	是枝祥子 本間郁子

※結果（運営基準の順守）

抜き打ち調査 の職員の対応	0時40分にインターフォンを押すと宿直の職員が対応してくれました。とても丁寧に対応・荷物置場所を案内してくれました。抜き打ち調査実施書を手渡し、調査を開始しました。
------------------	--

夜勤者数	6名＋夜勤新人指導研修者1名 (運営基準は6名。重要事項説明書通り)
拘束の有無	全居室（自室から鍵をかけている人以外）を確認した結果、拘束は無し。
プライバシーの確保	全居室はドアが閉まっており、プライバシーが守られ、排泄介助も適切であった。
不適切な対応	無し。夜間、ほとんどの方が安心して休まれている様子を伺うことができた。ターミナル対応の方に対して、時間の許す限り居室を訪れ、手を握ったりやさしく声をかけたり、心のこもった心配り気配りがあった。コール対応も敬意をもった対応で、不適切な状況は全く見受けられなかった。初めて夜勤をする職員に対してきちんと指導を行っていた。

## 【特記】

宿直者は主任だった。玄関を開けて丁寧に対応してくれた。宿直者はしばらく評価者についてきて質問したりしたが、1時間程度で宿直室に戻った。

夜勤の職員2人に「生活クラブ風の村特養ホーム八街の理念」を尋ねると全員が言うことができた。夜勤体制は12ユニットで6人配置（+夜勤研修者1人）しており、コンプライアンスは守られていた。

居室やトイレの臭いほぼ完璧なほどなかった。換気扇をしっかりと回しているだけではなく、排泄介助のスキルが非常に高いことと清潔に対する意識が高まっている証拠である。

朝8時くらいに本町の入居者が亡くなられた。その対応は夜間の間から時間の許す限り、居室に行き様子を見て、手を握ったりさすったり、やさしく声をかけたりしていた。心温まるケアであった。肩呼吸がはじまったことを聞いて、評価者2人も居室を訪れた。

居住環境に関しては、クリスマスの準備を始めているユニットも見受けられた。本町の居住環境は昨年度よりも一段と良くなっており、豊かさと居心地の良さを感じることができた。日ごろの職員の努力に敬意を表したい。

偶然にも夜勤者はほとんどが主任であった。そういうこともあって、いま困っていることなどを聞くことができた。

9時過ぎに施設長と特養部長に報告をするとともに画像で確認してもらった。最大の課題は人材確保だとのことだった。その戦略について、情報提供を行った。

評価者の視点からは、全体的にサービスの質の水準は保持されており、職員の責務に対する意識は高い。しかし話を聞くと、現在の職員数ではいろいろやってみたいことがあっても実践できる状況にないことが最大の悩みであることと異動が多くそれに伴う負担感が重いと話していた。

夜間のケアにおいては、コール対応に職員は丁寧にゆっくりと本人にわかるように話しており、入居者の安心につながっていると感じた。職員の温かく人としての誠意ある対応を高く評価したい。